

タイラギ類の養殖技術の開発を目指して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 皆川, 恵 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008583

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



有明海・八代海は今！

— タイラギ類の養殖技術の開発を目指して —

海区水産業研究部長 皆川 恵

タイラギ類の垂下養殖方法の開発です。

タイラギ類は潜水器漁法により漁獲される大型の二枚貝で、タイラギ（地方名：ズベ）とリシケタイラギ（地方名：ケン）の2種が漁獲対象となっています。有明海では従来この2種が見られ、ズベ貝の方が深い場所で、ケン貝は干潟など比較的浅い場所によく見られていました。ところが、最近はずべ貝はほとんど見られなくなりました。かつてはタイラギ類を対象とした漁業は地域経済を支える重要な産業でしたが、1980年代より有明海ではその漁獲量が激減し、数年前からナルトビエイなどによる食害や「立ち枯れ死」と称する原因不明の大量死が毎年発生するなど、漁獲量は盛期の約3万トンのおよそ100分の1程度になってしまいました。このようなことからタイラギ類の生産回復は漁業者から強く望まれています。



リシケタイラギ（ケン）

（独）水産総合研究センター西海区水産研究所では同水産工学研究所、長崎県総合水産試験場、田崎真珠株式会社田崎海洋生物研究所、小長井町漁業協同組合と共同で、農林水産省の研究資金を獲得し、平成18年度からタイラギ類の養殖技術の開発に取り組んでいます。

この研究では3つのテーマが立てられています。一つ目はタイラギ類の種苗の安定的確保のために効率的な人工採苗方法を開発することです。二つ目は死ぬ要因である貧酸素水や食害の防除を念頭においた稚貝の垂下式による中間育成方法を開発することです。三つ目は出荷サイズまでのメンテナンスや収穫の省力化を図った

カゴで養殖試験中のリシケタイラギ
(田崎真珠株式会社田崎海洋生物研究所 提供)採苗した稚貝をふ化から14カ月で出荷サイズまで育成
(田崎真珠株式会社田崎海洋生物研究所 提供)

現在もこれらの試験を継続中ですが、垂下飼育試験では高水温やシャトネラ赤潮、そして梅雨の低塩分でもほとんど死なないなど、現在の有明海環境でも十分に育成できることを実証でき、実用化の目処が立ちつつあります。今後は実用化に向けた取り組みを強化していく予定です。